

高志台

NAGAOKA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学園だより

Vol.172

2011.12.9発行

CONTENTS

02-03 高志祭	12 体育祭
04-05 進学・就職を目指す後輩へのメッセージ	13 部活動報告
06-07 企業実習(4年)報告	14 文化発表会
08-09 見学旅行(4年)報告	15 記念誌発行等
10-11 専攻科だより	16 トピックス

★高志台(こうしだい)

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、「このくに」(越の国・古志の国・高志の国)と呼ばれていました。学生に高い志をもってほしいとの願いと歴史上の地名とを関連させて学校のある台地を「高志台(こうしだい)」と命名しました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校

Nagaoka National College of Technology

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>



終わると寂しいものですね

学園祭実行委員長 機械工学科4年 大木 涼資

「脱・高専モラトリウム」。このスローガンを掲げ春から各部署の頭と共に学園祭に向けて準備をしてきました。学校創立50周年記念に合わせ一年早めて高志祭を実施することとなり、準備段階から不安と恐怖に押しつぶされそうでしたが、身の回りの方々を支えていただき、無事に学園祭を終えることができました。最終日に打ち上げた花火はとても綺麗で今でも目に焼き付いています。

今年の学園祭は例年より企画数を増やし、また新たにいくつかのセクションを新設することで各部署の仕事を分散させ準備がスムーズに行えるよう取り組んできました。コスプレフェスティバル・美男女ですね・個人企画、そしてLIVE JAMJAMを第一体育館で行うなど例年ない企画、運営方法で今年の学園祭はとても盛り上がったのではないのでしょうか。今年は昨年よりたくさんの学生が参加し、特に外部からのお客さんが多く見られ、当日の来場者数は私がこの学校にいた4年間の中で一番多く感じました。

過去2年間、私は学園祭副実行委員長を務め、運営側から学園祭を見てきました。その2年間で感じたことは学園祭のマンネリ化です。毎年同じ場所で同じ企画をし、インパクトに欠ける学園祭に不満を抱いていました。こんな学園祭で学生は本当に楽しめるのだろうか。今年はその課題をクリアするために各頭と何度も会議を重ね、よりよい学園祭を作り上げるよう協力してきたわけですが、学生の皆さんは今年の学園祭をどう感じましたか？運営側の至らない点も多くあったかと思いますが、皆さんの学生生活の思い出に残る学園祭となったなら幸いです。

最後に、今回の高志祭を行うにあたり協力してくださった各頭、学生、教職員の方々、地域の皆様、本当にありがとうございました。今後の学園祭にもご期待ください！



高志祭を終えて

コスプレフェスティバル頭 電子制御工学科2年 荻原 洋夢

今年は高専創立50周年を記念した高志祭でした。実は、僕達2年生は通常なら、高志祭が一度しか回ってこない学年でした。でも、50周年ということで、高志祭を他の学年と同じように二度回ってくることになり、とても嬉しく思いました。まずは感謝を申し上げたいと思います。

さて、コスプレフェスティバルですが、僕自身は学生会広報部の仕事との兼ね合いもあり、準備・運営ともに慌ただしくも充実した時間を過ごさせて頂きました。学園祭初であるこの企画は、何もかもが手探りで、当初はちゃんと企画として成立するのかさえ不安でした。しかし、先輩方や先生方をはじめとした多くの年長者、同級生や後輩といった仲間に支えられ、当日に幾つか問題が起きいろいろな方に迷惑をかけてしまったものなんとか最後までやり遂げることができました。

この高志祭を通して、僕は学生ではなかなか得ることのできないとても有意義な体験をさせていただけたと思います。今年のスローガンは「脱高専モラトリアム」ということでしたが、僕も含め、たくさんの人が社会人への一步を踏み出したのではないのでしょうか。



卒業後の進路を考える

後輩諸君へ



進路を決めるうえで

機械工学科5年 小林 卓矢

私は、就職にするか進学にするかものすごく悩みました。高専を卒業して進路を決めるということは、自分の人生を決定すると言っても過言ではないからです。私が進路のことを真剣に考え出したのは4年生の夏休み頃でした。最初は大学へ進学しようと思って、それに向けて努力していました。しかし進学すると言っても、どの大学へ進み、大学で何がしたいか、どういう研究をしてどの道へ進みたいかということが自分の中でははっきりとイメージできずにいました。そこで両親や先生に相談したところ、それなら就職にして働いたほうがいいのではないかと問われ、最終的に就職しよう決めました。就職先でも迷いましたが、一番の決め手となったのが、3月に起こった東日本大震災でした。震災が起こったことで当初決めていた企業を辞めて、今内定をいただいているJR東海に変更しました。仕事の内容的にも自分がやりたいことに合っていたのでこの企業に決めて正解だったと思っています。

こうした私の経験から進路を決定するうえで大事なことは、「とにかく早めに動き出すこと」、「自分が将来どんなことをしたいかを考え今の自分を見つめなおすこと」、「進路に悩んだとき一人で考えず頼りになる人に相談すること」の大きく分けて3つだと思います。私も早めに動き出したほうではありませんでしたが、早めに進路について考え行動することで気持ちに余裕を持って受験勉強なり就職活動なりできると思います。そして、悩んだときには先生や先輩など頼りになる人に相談することで何らかのヒントがもらえるはずですよ。その上で、将来の自分をイメージし、今自分が何をしなくてはいけないのか考えることで進路決定の助けになると思います。皆さんが進路を決定するうえで、私の経験が参考にできればいいと思います。



就職活動と運

電気電子システム工学科5年 松岡 尚汰

私は、今年の10月に東海旅客鉄道株式会社から正式に内定を頂くことが出来ました。いわゆる、JR東海です。就職先としては良い部類に入るのではないのでしょうか。私がこの内定を頂けたことはかなりの幸運でした。就職活動というのは実力7割、運3割、こんな話をとある人材センターの職員の方からお聞きしたことがあります。私は3割の運をつかむことができたのです。運というと自分の意志や努力ではどうしようもないものに聞こえます。しかし、それは違うと思うのです。運は自分の意志で変えられる。物語にもよく出てくる話です。何も証拠はありませんが、こう考えている人が多いということは、やはり何かあるのでしょうか。もし、自分の目指したい道があるのなら、幸運をつかむ努力をすべきです。それがどういった努力かは人それぞれ、日頃の小さな行いが運を左右します。人生をかけた大事な場面で、「不運であった」と嘆くことだけは避けたいものです。



私の夢

電子制御工学科5年 安達 人志

昔からゲームが好きだった私には1つの夢がありました。任天堂で働くことです。そしてその夢を叶えるために高専を選択し、入学しました。5年、進路を決める時期になり、就職希望だった私は高専卒でも受験できる任天堂の就職試験に果敢に挑戦し、多くの大学生、大学院生に負けず内定を貰うことができました。

この就職活動を通して、私は「これが就活において1番の武器になるのでは？」と思ったことがあります。それは「学生時代の経験」です。アルバイト、部活動、学校行事、寮生活など、体験したこと全てです。そしてその体験をよりよい武器にする上で1つのポイントがあります。それは「自分なりの工夫をすること」です。アルバイトで例を挙げると、「毎回少しでも早く来てお店の掃除をした」などです。このような些細な努力・工夫が結果を結んだ時、それは素晴らしい武器になります。企業から「自主的に物事を考え行動できる人材」として見てもらえる絶好のアピールポイントになります。

学生時代にしかこのような経験を培うことはできません。同時に、経験を積むチャンスは至る所に転がっているはずです。是非様々なことに足を踏み入れ、どんどん挑戦していきましょう。将来を決める道標にもなり、武器にもなる「経験」をたくさん集めてください。学生時代が充実するほど、将来も充実するはずです。

私はこの5年間、部活動、学校行事に常に積極的に参加し続けました。その経験は武器になり、自信になり、おかげで就職試験にも臆することなく挑むことができました。高専から大きな会社に就職することは可能です。どんどんチャレンジして、自分の夢が叶えられる様にこれからの学生生活を楽しんでいきましょう。



進路を考える

物質工学科5年 長 広紀

私は長岡技術科学大学への進学が決定しましたが、第一志望は別の大学でした。しかし、結果は不合格。筆記試験で簡易的なミスをしたことを今でも悔やんでいます。

私からひとつ言えることは何事も、とりあえずやってみることではないでしょうか。ダメだと思ってもやってみたら意外とできた、ということは誰にでもあると思います。そうすると自分にできること、できないことが少しずつだけわかる。やりたいこと、やりたくないことが好き嫌いにつながり、足りている部分や逆に不足している部分がより明確になるはず。それを先駆けとし、学習の方向性や進路を選択していけば、より充実した時間を過ごすことができるのではないかと私は考えています。

しかし、そもそも勉強が得意でないという方がいると思いますが、私もその中の一人です。そういった方は、どんなことでもいので誰にも負けなくらい好きなもの、または得意なことを見つけてください。一見、勉強とは関係のないことのように感じられますが、毎日の生活にメリハリが出て自然と勉学に励むことができるようになります。私自身、昔はそういったものがありませんでした。なんとなく過ごしていた毎日は充実しているとは言えないものでしたが、それと出会ってからは以前とは比べ物にならないほど毎日が変化し、今では勉学にもそれ以外のことにもメリハリのついた毎日を送れていると感じます。

現在、具体的に進学・就職を考えている方はできるだけ早い段階から準備をすることをお勧めします。



スタートライン

環境都市工学科5年 板場 建太

自分はこの夏進学の第一希望として横浜国立大学を受験しました。この受験にむけては、高専生活のほとんどをつぎ込んだ。2年生の冬、自分は第一希望をここに定めて、毎日受験勉強に励んだ。部活もある中、時間をうまく配分し、着々と日々を重ねていった。4年生になると部活も一段落したので一層勉強に励んだ。睡眠と食事と風呂とトイレ以外は全て勉強に費やした日も何日もあった。5年生になり、研究活動との両立も視野に入れ、春休みはほとんど毎日学校に来て研究を行い、夜には3～4時まで毎日勉強した。おかげで第二希望である長岡高専専攻科に受かることができた。この勢いを持続させ、夏休みに入り、受験当日をむかえた。編入試験の専門の傾向が変わり、また面接でも要項にはなかった英語による口頭試問があり、英語があまり得意でない自分は困惑し、手も足もでなかった。試験が終わり、研究を行う毎日になり、土木学会の全国大会に向かう空路の途中の羽田空港にて合格発表をむかえた。結果は不合格。自分の第一希望校に受かることはできなかった。非常にショックだった。しかし、自分に悔やんでいる暇はないと考え、専攻科に向けて研究に励み、毎日を積み重ねている。もちろん毎日勉強も行なっている。これは、大学院に進学するためである。編入にて叶えられなかった夢を何とかして実現するために自分は今、スタートラインに立っているのだ。

平成23年度大学等合格状況・就職内定企業等一覧 平成23年10月現在

●大学等合格状況

1. 本科

大学名	長岡高専専攻科	岩手大学	秋田大学	山形大学	茨城大学	群馬大学	千葉大学	信州大学	新潟大学	筑波大学	長岡技術科学大学	東京海洋大学	富山大学	金沢大学	岐阜大学	名古屋工業大学	豊橋技術科学大学	京都工芸繊維大学	大阪女子大学	奈良女子大学	首都大学東京	近畿大学	合計
機械	3						2	1	7		11		2	2		1							29
電気	5	1									12						3	1				1	23
制御	7							1	1	1	15						3	1					29
物質	4			1		1		2			13	1							1	1			24
環境	9		1		1						11												24
計	28	1	1	1	1	1	2	5	8	1	62	1	2	2	1	1	6	1	1	1	1	1	129

2. 専攻科

大学名	北海道大学大学院	長岡技術科学大学大学院	東京工業大学大学院	奈良女子大学大学院	首都大学東京大学院	合計
電子		9	1	1		11
物質	1	1				2
環境		1			1	2
計	1	11	1	1	1	15

●就職内定企業等一覧

1. 本科

○機械工学科

矢崎総業、メイテックフィルダーズ、東海旅客鉄道、サントリープロダクツ、関東電化工業、京セラ、三菱瓦斯化学、リコーキハラ、クラレ、国際石油開発帝石

○電気電子システム工学科

東北電力、山崎製パン、東芝、東芝メディカルシステムズ、ダイキン工業、新潟日立、大森電子、システムスクエア、アイエスマック、富士テクノサービス、パワーアシスト、エヌ・ティ・ティ エムイー、森永乳業、東海旅客鉄道、東ソー

○電子制御工学科

任天堂、エヌエスアドバンテック、日本ケミコン、リコーテクノシステムズ、エヌ・ティ・ティ エムイー

○物質工学科

Jマテ、カッパープロダクツ、富士紡ホールディングス、ツムラ、オリエント化学工業、出光興産、日本たばこ産業、トッキ、エヌ・イー ケムキャット、旭化成

○環境都市工学科

常盤工業、東日本旅客鉄道・JPハイテック、大成建設ハウジング、東海旅客鉄道、黒部川電力、エヌ・ティ・ティ エムイー、本間道路、前田道路

2. 専攻科

○電子機械システム工学専攻

大太平洋特殊鋳造、ツガミ、TDKラムダ、栄通信工業、三菱電機特機システム、ソーラーフロンティア、新潟県警察

○物質工学専攻

中外製薬工業、クラレ、旭化成、三菱瓦斯化学

○環境都市工学専攻

テレコメディア、エヌ・ティ・ティ・インフラネット、熊谷組、ネクスコ・メンテナンス新潟、新潟市水道局



企業実習

第4学年では、夏季休業期間中に実施する選択科目として「企業実習」を開講しています。この科目では、本校が定める受入れ機関や企業において、1週間以上2週間以内の期間、生産及び技術の体験を通じて、実践的な技術感覚を体得させるとともに、技術者として必要な人間性の形成を図ることを目的としています。

企業実習受け入れ企業・機関一覧

機械工学科：株式会社IHI検査計測，朝日酒造株式会社，株式会社越後交通鉄工所，株式会社オーエム製作所，株式会社兼古製作所，国際石油開発帝石株式会社国内事業本部新潟鉱業所長岡鉱場，株式会社シンコーテック，長岡電子株式会社，新潟造船株式会社，株式会社新潟日立（2名），ニューロン精工工業株式会社六日町工場（2名），パナソニック電工株式会社新潟工場，北越工業株式会社，三菱瓦斯化学株式会社新潟工場

電気電子システム工学科：一正蒲鉾株式会社，株式会社オーエム製作所，大森機械工業株式会社長岡工場（2名），株式会社グローバルネットコア，国際石油開発帝石株式会社国内事業本部新潟鉱業所長岡鉱場（2名），ジェイマックソフト株式会社，株式会社情報通信サービス，ツインバード工業株式会社，財団法人東北電気保安協会長岡事業所（2名），日本原子力発電株式会社東海・東海第2発電所，日本原燃株式会社，パナソニック株式会社セミコンダクター社新井工場，北陸ガス株式会社，北陸ガス株式会社長岡支社

電子制御工学科：株式会社いすゞ製作所，クリーン・テクノロジー株式会社，株式会社シアンス，ジェイマックソフト株式会社，株式会社北越電研

物質工学科：旭カーボン株式会社，越後製菓株式会社，株式会社きむら食品（2名），株式会社クラレ新潟事業所，新潟県工業技術総合研究所中越技術支援センター，新潟県農業総合研究所食品研究センター（2名），新潟県保健環境科学研究所（2名），株式会社ブルボン（2名）マサル工業株式会社長岡工場（2名），山崎醸造株式会社

環境都市工学科：株式会社植木組，株式会社大石組，大原技術株式会社，小柳建設株式会社，株式会社熊谷組，国土交通省北陸地方整備局国営越後丘陵公園事務所，国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所，国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所，国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所，新潟県土木部柏崎地域整備部，新潟県土木部長岡地域整備部，北陸ガス株式会社長岡支社

企業実習で得たこと

機械工学科 大方 瑛



私は夏季休業を利用して2週間、企業実習に行ってきました。私がこの企業実習を選じた理由は、『社会に出て働く』とはどういったことなのか、これからの進路選択に向けて体験してみたいと考えたからです。

今回、私が実習でお世話になったのは、長岡電子株式会社という、金属加工製品に熱処理を施すことを主な業務内容とする企業です。そこでの主な実習内容は、金属への各種熱処理の概論及び作業体験と、他社製品の受入れから納品までの各工程管理(品質管理)の経験などです。

その中でも私が強く印象に残ったのは、製品の受入れから納品までの一連の工程管理です。私が実習で担当した製品は、小型工作機械向けのスピンドルシャフトという、普段の生活ではあまり関わりのないようなものです。しかし、受入れから納品までの各工程の間にはクリアしなくてはならないチェック項目が数多くあり、一つ一つの作業の重要さにとても驚きを受けました。また、実際に作業を進める際には、一人一人のつながりが大切であり、そのためのコミュニケーション能力はとても重要なものだと感じました。

今回の実習を通して、『社会に出て働く』ということを感じ取り、とても充実した2週間を過ごすことができました。この企業実習で得たことを、残りの学生生活とその後の進路において生かすことができるように努力したいと思います。

企業実習

電気電子システム工学科 川上 泰樹



私はインターンシップで東北電気保安協会という企業で実習させていただきました。東北電気保安協会とは主に自家用工作物の点検や一般家庭の電気の点検などを行っている企業です。

私は電力関係の企業へ就職を考えているためこの企業での実習を選びました。

実習先では主にお客様の施設の点検を見学させていただきました。点検業務は機器に異常や危険箇所がないかを確認し、事前に事故を防ぐことが目的です。高圧電圧を取り扱っているため一歩間違えれば大事故にもつながり、また点検に不備があると点検以降に事故が発生してしまう可能性があります。そんな仕事のため朝礼では全員で安全確認の合図を行い、点検の際も声に出して安全確認を行うなど安全への意識が高いと感じました。また仕事ばかりでなく新たな機器の取扱い方や法律について自主的に勉強するなど仕事をされている人たちの向上心の高さも感じられました。この仕事は

特に知識・経験と責任の必要な仕事だと感じました。そして学校を卒業して仕事についても向上心が必要であり、それに伴って勉強していく“生涯学習”が必要なのだと知りました。会社の方には数学はととても重要だと言われました。仕事は勉強できるかより興味と向上心、後は仕事を通して学んでいく

ことの方が多くと会社の方の話を聞いて思いました。

学校で勉強しているだけでは学べないこと、頭では分かっていても社会に出てみなければわからないことはたくさんあります。学校にいた間では数少ない社会と接する機会こそが企業実習だと思います。とてもいい経験になりました。

企業実習で得たこと

電子制御工学科 佐藤 馨



私は高専で学習していることが実際に企業に就職したときに役に立つのか、と疑問に思っていたことと、前々からWEBデザインというものに興味があり今回の企業実習に参加してきました。

実習先である株式会社シアンスは主に企業を相手にしたWEBサイトのデザイン、製作、データベースの作成、プログラミング等を行っており、今回はWEBサイト製作の一連の流れを体験してきました。体験内容は、全体の骨組みの作成、デザインの作成、HTML・CSSを使ったコーディング、phpによるプログラミングで、それぞれわからないことがあったら担当の方に質問するという形でした。

私が小さなことに疑問を感じ、質問をするとそれぞれの担当の方は必ずといっていいほど質問以上の回答をしてくれました。特にデザインの作成では普段では考えたことのない観点からのお話が多く、たくさんのアドバイスやアイデアをいただきました。例としては、今回は子供向けのサイトということだからメニューを少なくしたほうがいいのではないか、全体のイメージが大事だから画像などで色彩を補完したほうがすっきりするのではないか、など実践的な意見をいただきました。

今回の企業実習で感じたことは企業は何よりもユーザを第一に考えて製品は作っているということです。ボタン一つでも対象である層を考え、突き詰めて作られています。私は今回の実習を経て、これからは自分の作ったものが誰に使われるのか、それを意識してものを作りたいと思います。

企業実習を終えて(うさぎもちっっ)

物質工学科 金子 彩菜



私は卒業したら就職しようと考えているため企業実習に行くことにしました。企業実習先は燕市にある株式会社きむら食品で、同じクラスの大桃さんと9月5日から9日の間、実習を行ってきました。数ある実習先でもきむら食品にした理由は、生物系の先輩が働いていると聞き、生物系を卒業してからどの様なところで働くことができるのか知りたかったからです。実習内容は、社内のルールを教えていただき、一切れ餅の工場見学、ピンホールチェックといって餅の入っている袋に穴が開いていないかの検査、鏡餅の箱の組み

立て工場に行き、実際にラインに入っの作業、冷凍米飯のタレの糖度測定をしました。企業実習では普段、学校の行事で行く工場見学では見られないような場所も間近にみることができ興味深かったです。企業実習に行く前は就職に対して、まだ考えなくていいと、投げやりでしたが、実際に企業に行き働いてみたら自分の将来について、深く考えるようになりました。自分が就きたい職種など大まかですが決まった気がします。企業実習は慣れない環境に緊張して疲れてしまいましたが、みなさん仲良くしてくださって最終日には打ち解けられました。企業実習の5日間は疲れて二人で帰りの電車ではグッタリしていましたが、得るものは大きかったと思います。いつも私は夏休みをだらだら過ごしてしまいましたが、今年の夏休みは企業実習に行ったので例年よりも充実したと思います。

企業実習を終えて

環境都市工学科 高橋 政宏



私は小柳建設株式会社で企業実習をしてきました。期間は5日間で、実習場所は燕市で線路橋の下に道路を通そうとしている現場でした。現場を近くから見る機会はあまりなかったもので、とても新鮮でした。悪い環境で作業を行っていると思像していましたが、想像とはまったく違いました。小柳建設はそこで現場監督をしている企業です。実習内容として、現場の見学、精密機械を使った測量などをやりました。ほとんどが初めて知り、携わった作業でした。小柳建設や下請けの人々から学校では聞けない話を聞くことができ、どの話も印象的でした。それらは実習で一番私に

影響を与えたと思います。

実習すると、いろいろなことが見えてきました。仕事に取り組む姿勢や仕事に対する責任などが伝わってきました。特に最初本社に行ったときの従業員のあいさつがすすぎで、これが社会人かと衝撃を受けました。気持ちの持ち方が私とはまったく違い、私もこのようになれるのかと不安になりました。また、この仕事だけではないと思いますが、人とコミュニケーションをとることが何よりも重要だと思いました。やはり、このように人間の基礎となる部分がとても重要でした。

初めてのことはばかりで緊張する日々でしたが、仕事や進路などを考えさせられるものでした。後悔していることもあり、体験したことや感じたことをもっと詳細に記録しておくべきでした。



第4学年見学旅行

(平成23年9月27日(火)～30日(金))

見学旅行は、国内の最新の技術や設備のある工場や研究所等を見学し、専門の知識を豊かにするとともに、文化財、名所旧跡を訪ね日本の伝統と文化を学び、技術者としてバランスのとれた成長を促すことを目的とした教育活動の一環として、4年次に行われるものです。

見学先一覧

機械工学科：東京・神奈川

- ・株式会社アルバック茅ヶ崎工場
- ・キヤノン株式会社下丸子本社
- ・東芝科学館(館内見学+セミナー)
- ・日本航空株式会社 JAL 機体整備工場
- ・三菱重工業株式会社横浜製作所 金沢工場
- ・株式会社リガク本社・東京工場

物質工学科：大阪・神戸

- ・上田合金株式会社
- ・大阪産業大学
- ・講演会 講師：青木 豊彦 氏(株式会社アオキ代表取締役)
- ・ライオン株式会社 大阪工場
- ・株式会社神戸ヤクルト工場

電気電子システム工学科：東京・神奈川・つくば

- ・宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センター
- ・鎌倉大仏殿高德院
- ・国会議事堂
- ・全日本空輸株式会社 ANA 機体メンテナンスセンター
- ・日産自動車株式会社追浜工場
- ・日本電波塔株式会社(東京タワー)

電子制御工学科：東京・横浜・つくば

- ・宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センター
- ・公益財団法人鉄道総合技術研究所
- ・東芝エレベータ株式会社府中工場
- ・日産自動車株式会社横浜工場
- ・公益財団法人東日本鉄道文化財団鉄道博物館

環境都市工学科：北海道

- ・有珠山西山火口
- ・新日本海フェリー株式会社
- ・地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所

見学旅行報告

機械工学科 山上 裕太



私たち機械工学科は、東京、神奈川に行ってきました。1日目にリガク、2日目は三菱重工業とアルバック、3日目にキヤノンと東芝科学館、そして4日目は羽田の整備工場を見学してきました。

いずれの企業でも、会社概要などの説明の後に、現場を見学させていただきました。三菱重工では、巨大なボイラーやタービン、高さ100m以上の2.4MW風車実証機を見学しました。昨年の工場見学で見学したオーエム製作所の工作機械も使われており、技術のつながりを感じました。リガクでは、数多くの自動化された工作機械があるにもかかわらず、熟練の職人技を必要とする工程がありました。大企業でも、

この様な人でしかできない作業があり、人間と機械が協力して初めて良い製品ができるのだと思いました。

見学後には、事業内容や技術的な質問に答えていただいたばかりでなく、高専生が就職した場合の待遇や企業が求める人材像、就職後には学校で学習した内容が基本として求められることなど、これからの学生生活や進路選択に有益な情報や経験談もお話いただきました。

この旅行では最高の思い出と貴重な経験を得たと思います。



見学旅行へ行って

電気電子システム工学科 蔦 将哉



夏休みが明けて9月26日から4日間、僕達は見学旅行に行きました。目的地は関東。想像していたように高層ビルが立ち並び交通量も僕達の住む地域とは段違いでした。しかし、建造物が多い分自然が少ないだろうと思っていましたが、実際には緑が多く、地域によってはとても鮮やかな景色を見ることができました。

そして、1日目の目的地であるANA羽田空港を見学しました。間近で見る飛行機の迫力は忘れられません。

2日目には、追浜の日産自動車工場を見学しました。自動車を作る過程を見せてもらい様々な技術を見学することができました。

3日目は自由行動だったため各人東京の街を楽しみました。

最終日の4日目にはまず国会議事堂に行きました。短い時間でしたが議事堂の中を歩くことができました。そして、最後の見学場所である筑波宇宙センター。ここでは、宇宙飛行士について詳しく知ることができました。

旅行を終えたこれからは将来のことを考えて行動していかなければなりません。4日間の旅行を通して得ることができたものを今後の進路に役立てていければ良いと思います。



東京見学旅行の感想

電子制御工学科 小泉 悠介



今回の見学旅行では、電子制御工学科は東京・横浜・筑波に行きました。1日目は日産横浜自動車工場で、車のエンジン生産ラインを見て回りました。ほぼ自動化された生産ラインの動きはとても新鮮でした。2日目は鉄道総合技術研究所と東芝エレベーター府中工場を見学しました。鉄道総研では、実験用の降雨発生装置を用いた大雨の中を傘を差して歩くという体験ができ、東芝エレベーターではエレベーターの作成過程を実際に見学し、エレベーターに関する研究成果を見ることができました。時速60.6キロで移動できるエレベーターがあることに驚きました。3日目は自由行動だったため、東京にいる友達の案内で東京観光をしました。4日目はJAXAと鉄道博物館を見学しました。

JAXAでは展示館を見学し、巨大な衛星がいくつも展示されているのが印象的でした。鉄道博物館では模型鉄道の巨大ジオラマでたくさんの電車が動いていたのが圧巻でした。

見学以外の自由行動時にもたくさんの思い出ができ、この4日間は、とても有意義かつ思い出に残るものとなりました。



まいど!!

物質工学科 大桃 沙織



私たち物質工学科4年生は、3泊4日で大阪、神戸に行ってきました。

中でも心に残っているのは1日目にホテルで聞いた青木社長のお話です。青木社長は、東大阪で中小企業を盛り上げようと、人工衛星『まいど一号』の打ち上げの中心となった方です。たった1時間しかお話を伺えなかったのですが、堅苦しい感じかと思っただけ全然そんなことなく面白い人で何かをやっやろうという勢いや熱意がひしひしと伝わってきて凄い方なんだなあと感じました。日本に、自分たちのために、自分たちの会社や仕事に、誇りを持つという話です。『ほかの誰かが知らなくても俺が知ってるいい会社だ』と自分が勤めている会社を、胸を張って言えるような会社になりたいとい

うお話でした。私が仕事につくときはこういう方の下について働きたいと思ったし、自分の仕事に胸を張れるようになりたいとこの話を聞いて思いました。

最後に、大学見学や工場見学もできたし、異人館や海遊館にも行けて、行きの新幹線から帰りの電車まで楽しむことができたのでよかったです。



北海道はでっかいどう

環境都市工学科 小熊 啓斗



私達環境都市工学科4年生は北海道へ見学旅行に行ってきました。フェリーで18時間はとても大変でしたがそれでも皆と過ごす18時間はとても楽しかったです。北海道に上陸したとき初めて思ったのは、自分が想像していたのよりも寒くなかったことでした。北海道といえば極寒のイメージだったので9月でも十分寒いと思っていましたが、あまり寒くなくて驚きました。

自分が見学旅行で一番印象に残ったのは北方建築総合研究所の見学でした。研究所内では様々な実験設備を見学したり、それらを説明・解説してもらったりとても面白かったです。中でも自然の力を利用した換気システムと雪国ならではの氷・雪冷房は特に興味深かったです。他には自由時間に回った札幌市資料館には刑事法廷展示室があり、と

ても勉強になりました。また登別温泉は色んな効能の温泉がいくつもあり何時間温泉に浸かっても全く飽きないくらいすごかったです。皆さんも機会があったら是非行ってみてください。

最後になります。最後になりますがラーメンがとても美味しかったです。





今号の専攻科だよりでは、8月1日に行われた専攻科フォーラム2011のご報告と参加した学生の感想、夏休みに行われた学外実習の報告、9月23日(金)、24日(土)に専攻科1年生が参加した赤城フレッシュセミナーに関する記事を掲載致します。

専攻科フォーラム2011

8月1日に専攻科フォーラム2011を開催しました。特別講演の講師として長岡造形大学学長の上山良子氏をお迎えし、専攻科2年生の大原君ほか3名が就職・進学報告を行いました。また教務関係や学校生活等のフリーディスカッションでは、活発な議論が交わされていました。

専攻科フォーラム2011 プログラム

開催日：平成23年8月1日(月) 13:00～15:50
会場：441 講義室

1. 専攻科長挨拶

2. 特別講演会

講師：上山良子氏 (長岡造形大学・学長)
演題：「こんなに広いデザインの領域」
だれかのために一創造と技術



3. 就職・進学報告会

報告者：大原正康君、佐藤亮二君、久保 涼君、阿部広明君

4. フリーディスカッション

教務関係、学生生活等について



専攻科フォーラム

電子機械システム工学専攻1年 河合 孝太郎



今年の専攻科フォーラムの特別公演は、長岡造形大学学長の上山良子さんが『「こんな広いデザインの領域」：だれかのために一創造と技術』

というテーマで講演されました。デザインの分野は関わりが少ないためすごく新鮮であり、広い視野を持つには有意義だったと思います。また、上山さんの仕事に対する熱意がすごく伝わり、一生懸命物事に取り組むことの大切さを改めて実感しました。

就職・進学報告会では、就職については就職活動の流れや面接の様子、進学については勉強方法や試験の内容など、先輩方の貴重な経験談を聞くことができました。先輩から報告を聞くことができる機会はそれほど多くないので非常に参考になり、自分が今何をすべきかを明確にすることができました。

専攻科フォーラムには、この他にも学生同士が学校生活などについて意見交換できるフリーディスカッションもあり、専攻科生が情報を得たりするには非常に良い機会だと思います。

専攻科フォーラムに参加して

電子機械システム工学専攻2年 久保 涼



緊張した。人前で発表することは学会などで幾度かあり慣れていたつもりだったが、やはり同じ学校の後輩を前に、となると勝手が違ったように思う。自分自身も昨年先輩方の就職・進学報告を聞き、内容の濃さに驚いた記憶があっただけに先輩方のレベルまで到達できなかったが、難しかった。その原因は入試についての記憶が薄れていたためだと思う。もちろんメモを取っておけばよかったのは言うまでもないが、そんな気は当時の自分にはなく、報告用の資料を作るときには苦しい状況になってしまった。結局専攻科フォーラムの当日ギリギリまでかかって仕上げ、就職・進学報告に臨むことになった。発表中ほとんど周りを気にする余裕はなかったが、なんとか発表は終えることができ、多少なりの満足感に浸っていた。しかし、発表後しばらくして長岡高専の学生、それも専攻科生らしきブログを見つけた。そこには専攻科フォーラムの記事があり、就職・進学報告についてこう書かれていた。「特に印象に残るような話はなかった」…耳に痛い。後輩に改めて教わった報告会になった。

学外実習報告



企業実習を終えて

電子機械システム工学専攻1年 阿部 駿

今回、私は株式会社リケンを企業実習先を選び、2週間実習をさせていただきました。株式会社リケンはピストンリング生産において国内トップシェアであり、日本のすべての自動車メーカーと取引をしている企業です。今回の実習では、リケンの中でも最も主力製品であるピストンリングを生産する製造現場で実習を行いました。今回の実習では学校で学んだ知識を活かせる場面はあまりありませんでしたが、学校では学ぶことのできない社会人としてのマナーなどを学ぶことができました。また、実習中の作業自体は専門的知識は不要でしたが、いい製品を作るためにはすべての作業員が製造技術について理解する必要があると言われ、いい製品を作るには学校で習う理論的な知識も必要だと実感しました。

また、リケンでの2週間の実習は学校で勉強するということの重要性を再確認できるいい機会になりました。学校の勉強が退屈で仕方ない、将来やりたいことがない、というような人はぜひ企業実習に行ってすばらしい技術を生で見てくることをお勧めします。



企業実習から学んだこと

物質工学専攻1年 坂牧 康平

私は北越紀州製紙株式会社の研究所で2週間の企業実習をさせていただきました。研究所は長岡市内にある長岡工場に併設されており、紙製品の開発、研究を行っています。企業実習では来春用の年賀状について、物理的性質の測定や紙としての性能の評価を手伝わせていただきました。物理的性質の測定には学校では見たことのない特殊な測定器を使用しましたが、使用する器具は学生実験でも使用する一般的なものであり、今まで学んできたことが社会で実際に役に立つのだと実感することができました。

また、2週間と短い実習期間ながら歓迎会を開いていただき、柳田所長をはじめ実習先でお世話になった方たちとお話をさせていただきました。その際には現在社会人としてグローバルな目線が必要であること、様々な人と関係を持つに当たりその人がどのような人なのか理解する必要があることなど多くの貴重な体験談を聞かせていただきました。

この2週間の実習は、学校で学ぶことの重要さと技術者に必要なことを知る良い機会になりました。



インターンシップで学んだこと

環境都市工学専攻1年 関 由里絵

私は北陸地方整備局湯沢砂防事務所で、2週間勉強させていただきました。実習内容としては、砂防事業に関する説明を受けた後、長野県北部地震と新潟・福島豪雨の災害現場に見学に行き実際に作業のお手伝いをするという流れでした。また、実習最終日には実習の総括ということで実習を通して学んだことなどを局長に報告しました。私は、今回のインターンシップを通して少しだけ将来自分になりたいものが見つかったような気がします。ほとんどの学生さんは、夏休みにインターンシップとか面倒くさいとか考えていると思いますが、将来について考える良い機会になりますし、自分自身の成長にも絶対に繋がると思うので皆さんも是非インターンシップに参加してみてください。

赤城フレッシュセミナー (9月23日, 24日)



赤城フレッシュセミナー に参加して

電子機械システム工学専攻1年 淡路 健人

私達専攻科1年生は、毎年群馬県の赤城青少年交流の家で開催される専攻科合同フレッシュセミナーに参加してきました。この会には長岡高専の他茨城高専、群馬高専、木更津高専、東京高専、長野高専の計6校が参加し、専攻科生の視野を拡大し研究や学習の意欲の向上と学生生活の充実を図ることを目的として高専間の交友を広げるものです。長野高専の卒業生であるミマキエンジニアリングの会長の方を講師に招いて会社経営についての公演を聞き、また夜には酒を交えて他高専の学生と親睦を深めました。普段の学校生活では味わえない、有意義な1日となりました。



Sports Festival

体育祭

体育委員長 電気電子システム工学科3年 佐藤 拓哉

体育祭を終えてということで一筆書かせていただく体育委員長の佐藤です。

今回の体育祭では玉入れの復活、新競技の障害物競争、各種目のルールの変更などいろいろな部分を変更しました。これによって一つの目標でもあった女子や運動の苦手な学生でも参加しやすい体育祭にするということを少しは達成できたのではないかと思います。

それと今年は昨年部活動対抗リレーで人気があった実況解説を全競技につけ、見ている側も楽しめたのではないかと思います。実況をしてくださった方々ありがとうございました。新競技の障害物競争はレース数は時間の都合で一回になってしまいましたが、なかなか盛り上がっていたと思います。

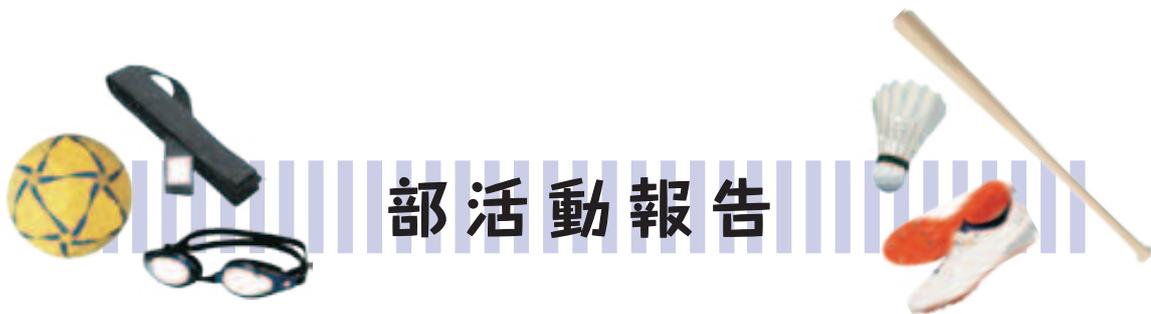


体育祭を観に来てくださった保護者の方々、そして参加して下さった学生の皆さん本当にありがとうございました。

今回の体育祭は僕が委員長になって初めての体育行事で自分自身でもどうしたらいいかわからないところがあり、他の役員の方に迷惑をかけてしまいました。今回の体育祭は来年に反省を残す部分もありましたが全体的には良い体育祭になったのではないかと思います。

最後に協力して下さった学生会役員、教職員の方々、





部活動報告

平成23年度高等専門学校体育大会結果

全国大会、地区大会の上位入賞種目を紹介します。

○全国高等専門学校体育大会

開催種目	結果
水 泳	男子 400 m自由形 南 裕也 7位
	男子 800 m自由形 南 裕也 5位
	岡 伸哉 8位
陸 上	男子 4×400m リレー 7位
	男子 110m ハードル 須藤 大翔 優勝
	男子 200m 須藤 大翔 6位

○関東信越地区高等専門学校体育大会

開催種目	結果
野 球	2位
バドミントン	女子団体 2位
	女子 S 金井 綾香 優勝
柔 道	男子団体 2位
	個人男子 60kg 級 清水 隆史 優勝
	個人女子 52kg 級 小林 千玲 2位
ハンドボール	2位
水 泳	男子 100 m背泳ぎ 山崎 脩道 優勝
	石川 亮 3位
	男子 200 m平泳ぎ 西山 真史 3位
	男子 400 m自由形 南 裕也 3位
	男子 800 m自由形 南 裕也 優勝
岡 伸哉 3位	
陸 上	男子 4×400m リレー 2位
	男子 400m 池田真太郎 2位
	男子 110m ハードル 須藤 大翔 優勝
男子三段跳び 前田 一樹 優勝	

第36回関東信越地区高専 文化発表会

文化発表会実行委員長 環境都市工学科3年 佐藤 由佳

関東信越地区高専文化発表会、略して「文発」が9月3日と4日に群馬県渋川市で行われました。関東信越地区高専文化発表会とは、関東信越地区の高専の文化部が集まり、発表・展示・コンペティションを行い、各高専との交流を深めていくための場です。今年は長岡高専から文芸部・化学部・



電算機部・インターアクト部・ブラスバンド部・書道部・英語部・写真部・軽音楽部・制御システム研究同好会・美術部の計11の部活が参加しました。人数も100人を超え、例年より

高専ロボコン「会場を沸かすも」 全国大会出場ならず

ロボティクス部顧問 電気電子システム工学科 床井 良徳

10月2日(日)、大月市民総合体育館(山梨県大月市)にて「高専ロボコン 2011 ロボ・ボウル」の関東甲信越大会が開催されました。



今年度の競技課題は、2足歩行のオフェンス・ロボットが、学生から受け取ったアメフトボールを、相手の移動手段を問わないディフェンス・ロボットをかいくぐり、チームメイトの学生に向けてノーバウンドでタッチダウンパスを送り、タッチダウンパスが成功するまでのタイムを競う競技です。競技は、2チームによる対戦方式、攻守交替して1回ずつ行われ、先攻・後攻それぞれの競技時間は各1分30秒。しかしディフェンス・ロボットがボールをノーバウンドでキャッチするインターセプトに成功すると、なんと競技時間が30秒減る展開になります。

本校からは、ロボティクス部の「もしアメ」,「Phoenix」

も大人数での参加となりました。今年は震災の影響から残念ながら参加出来なかった高専もありました。また、行きは悪天候により到着予定時刻よりも1時間以上遅れるという



アクシデントがありました。しかし、文発当日はそれぞれの部活が様々な発表をし、また他高専との交流もでき、とても良い発表会となりました。

このような他県の人と交流する機会があるのも高専ならではのと思います。なので、この機会を上手く利用してもっとたくさんの人達と交流してほしいと思います。そして、来年度以降の部活動が更に充実したものになればと思います。

の2チームが出場しましたが、健闘一歩及ばず、全国大会出場への切符を手にする事が出来ませんでした。しかしながら、両チームともに奮闘し、ロボットのアイデア・パフォーマンスで会場を沸かせました。チーム「もしアメ」のディフェンス・ロボットは大会で唯一インターセプトを成功させたロボットであり、決勝戦前のエキシビジョンマッチ出場にも選ばれました。この試合でもイレギュラーでしたが天井に当たって跳ね返ってきたボールを見事にキャッチし、技術力の高さをアピールしました。またチーム「Phoenix」のディフェンス・ロボットは、非常にユニークなアイデアを持ったロボットであり、試合後のパフォーマンスで飛んで来たボールのディフェンスに見事成功し、会場を沸かせました。

昨年度に引き続き全国大会への出場への願いが叶わず、部員・顧問一同非常に悔しい気持ちでいっぱいです。この悔しさをバネに来年度「三度目の正直」で、全国大会に出場致します。今大会の反省を含め、来年度に向けての活動を既に開始しております。これからも引き続き、ロボティクス部・高専ロボコンを宜しくお願い致します。最後になりましたが、応援ご支援して頂きました皆様、ありがとうございました。



『高志台の五十年 - 長岡工業高等専門学校五十周年記念誌』の刊行

五十周年記念事業実行委員会 記念誌部門長
一般教育科 田中 聡

平成23年9月13日、本校の創立50周年を記念する『高志台の五十年』（A4版、121頁）が刊行されました。

刊行に向けた作業は、平成20年4月、五十周年記念事業実行委員会が組織されるとともに始まりました。当時の校長（高田孝次前校長）の意向を踏まえ、「時代にあった」、「親しみやすい」記念誌を作成することを基本方針とし、作業を進めました。内容構成は、本校を支えてくださっている方々からいただいた祝辞にはじまり、季節ごと時代ごとの長岡高専の写真、「長岡高専への熱きメッセージ」、「長岡高専五十年の歩み」、「長岡高専を支える各学科の歩み」などからなっています。「長岡高専への熱きメッセージ」では、旧教職員や同窓生から、それぞれの時代の思い出や本校に寄せる熱い思いを綴っていただきました。校史にあたる「五十年の歩み」では、日本や世界の動きと本校の出来事に対応させ、時代ごとの長岡高専の姿を大掴みに把握できるように編集しました。また、地元長岡の地域史との関係にも留意しました。

刊行までの3年半、各方面から多大なご協力を頂戴しました。ご協力くださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。また、この記念誌が本校のさらなる発展に少しでもお役に立てることを願っています。



長岡高専ロゴマーク表彰

9月26日(月)後期始業式終了後、本校のロゴマークをデザインした機械工学科2年吉田智広さんに渡邊校長から表彰状と副賞が授与されました。



新任教職員紹介

《学生課学生支援グループ係長(学生支援担当)》

竹内 浩

● 趣味

スポーツ観戦(特に野球)、ボウリング

● 抱負

5年半ぶりに勤務しています。相当「浦島太郎」なところもありますが、復興を遂げた校舎で気持ちを新たにしています。ご指導、ご鞭撻の程お願いいたします。



《総務課職員グループ》

江端 大地

● 趣味

日記、ランニング、チェス

● 抱負

本年度11月より総務課に採用されました江端と申します。

元は物造りの人間ですが、どんな小さなことでも皆様のお役に立てたらと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



《総務課契約・施設グループ(用度担当)》

横田 拓巳

● 趣味

スポーツ観戦、映画鑑賞

● 抱負

10月から長岡技術科学大学より赴任してまいりました。

用度担当は初めてですが、早く仕事に慣れ長岡高専のお役にたてるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



TOPICS

平成 23 年度戦略的創造研究推進事業「さきがけ」に採択！



採択の経緯とその研究内容について

物質工学科 准教授 荒木 秀明

この度、科学技術振興機構(JST)の戦略的創造研究推進事業「さきがけ」に「レアメタルフリー新型化合物系薄膜太陽電池の開発」というテーマで採択されました。研究内容は、希少元素であるインジウムや毒性のセレンを含まず豊富で安価な銅・スズ・硫黄からのみ構成される銅スズ硫化物系光吸収材料を用いて、大規模量産化に適した新型化合物薄膜太陽電池の開発を行うというものです。

さて、この「さきがけ」ですが、知る人ぞ知る、知らない人は全く知らない制度だと思えますので、少し紹介したいと思います。「さきがけ」は、革新的な新技術の創出を目指す個人型研究で、研究総括・アドバイザーと呼ばれる第一線で活躍されている研究者の下、同じ研究領域に集まった研究者と交流・触発しながら3年間研究に取り組みます。研究費は1課題あたり数千万円。このメンバーに選ばれることが科学技術の若手研究者の登竜門として認知され、「さきがけ出身」が一つのブランドのように見られている(らしいです。JST NEWS vol. 4 (2008))。登竜門とはいっても、

選ばれるだけで竜になれるわけではなく、研究期間3年間で成長できるかどうか重要であり、さきがけ研究者同士の議論の場でもまれることで大いに鍛えられたいと思います。

この研究テーマですが、実は研究室の学生の実験結果がきっかけでした。本校のもう一つ大きな太陽電池研究プロジェクトの一環として、私の研究室でも銅、亜鉛、スズ、硫黄の4つの元素から成る CZTS 太陽電池を研究していました。亜鉛がスズよりも過剰な組成の方が、高い発電効率となることが常識となっていたので、亜鉛過剰の薄膜の作製を指示していましたが、ある時、研究室の学生が亜鉛不足の試料を作ってみたところ意外にも発電したとデータを持ってきたことから、亜鉛無しでも発電するのでは?という発想がきっかけとなり、本研究テーマに辿り着きました。(実際はこんな単純な話ではありませんが、きっかけはこんなところでです。)高専で研究は難しいと弱気になる時もありますが、学生の常識にとらわれない柔軟さ・若さが大学にも負けない研究の原動力になるのではと思った瞬間でした。研究室の主役である学生のみなさんに「さきがけ」のプレッシャーで悲鳴を上げている姿だけでなく、一緒に研究に取り組むことで「さきがけ」研究を身近に見てもらい、研究の楽しさを感じてもらえるように頑張りたいと思います。

8月7日〔日〕/8日〔月〕 オープンキャンパス2011 開催

天候にも恵まれ、暑い中、初日の参加者 405 名、2日目 259 名、2日間で延べ 664 名の皆様にご来校いただきました。

特別授業期間

本校では、夏休み期間の活用(インターンシップ活性化、学生の家庭学習)、行事や講演会等の日程確保・集約化、及び後期授業のスムーズな開始をねらいとして、今年度から夏休み明けに特別授業期間〔9月26日(月)～9月30日(金)〕を設け、学年・学科毎に下記のような様々な企画が行われました。

全 校：後期始業式・課外活動報告会、学園祭の打合せ

1～3年：講演会、夏休み課題試験(国語、英語、数学など)、学外研修、補習、工場見学・企業ガイダンス(3年)など

4 年：見学旅行(3泊4日)など

5 年：卒業研究、学外実習報告会聴講、研究室見学の説明など

専攻科：特別研究、進路ガイダンス、学外実習報告会など

第3学年工場見学

9月30日(金)〔電気電子は10月7日(金)〕に第3学年工場見学を実施しました。見学させていただいた企業等は次の通りです。

機 械 工 学 科：株式会社NS・コンピュータサービス、株式会社三菱計器製作所

電気電子システム工学科：東北電力東新潟火力発電所、日本海エル・エヌ・ジー株式会社

電子制御工学科：クリーンテクノロジー株式会社、TDKラムダ長岡テクニカルセンター

物 質 工 学 科：三菱ガス化学株式会社新潟工場・研究所、新潟大学、JA 全農バイオエタノール製造所

環境都市工学科：電気化学工業株式会社

高田前校長の退職記念講演会・記念パーティー開催

本年3月に退職した前校長・高田孝次先生の「退職記念講演会・記念パーティー」が、9月18日(日)ホテルニューオータニ長岡にて開催されました。

